

## 令和4年度第1回伊勢市子ども家庭支援ネットワーク委員会議 議事録

日 時 令和4年5月24日（火）午後1時30分～  
場 所 伊勢市役所東館4-3会議室  
出席委員 辻村委員、竹澤委員、奥田委員、山路委員、秋山委員、濱口（恵）委員、  
前田委員、西沢委員、西川委員、岡村委員、大橋委員、岡本委員、山口委員、  
濱口（基）委員、堀川委員、樋口委員、奥野委員、谷委員、山鹿委員、上永委員  
欠席委員 久保田委員、鎌田委員、田口委員、加藤委員  
事務局 健康福祉部参事、こども家庭相談センター長、ほか3名  
議 題 議案第1号 会長及び副会長の選任について  
議案第2号 令和3年度伊勢市子ども家庭支援ネットワーク活動実績  
議案第3号 令和4年度伊勢市子ども家庭支援ネットワーク活動計画（案）

### 1 はじめに

#### 【事務局】

開催挨拶  
欠席委員報告  
委員委嘱・辞令  
委員自己紹介  
事務局職員紹介

### 2 報告・協議事項

#### 議案第1号 会長及び副会長の選任について

【事務局】 議案第1号について説明

会長・副会長選任、会長・副会長挨拶

#### 議案第2号 令和3年度伊勢市子ども家庭支援ネットワーク活動実績について

【事務局】 議案第2号について報告

【各委員】

○委員

コロナで家の中にいると、面前DVは心理的虐待で上がってくるが受付は多いのか。

○委員

対象の家族に子どもがいると、ほとんどが面前DV・虐待で上がってくるので、児童相談所

に連絡させていただいている。ここ3～4年前から件数は飛躍的に増加している。

○委員

数は年々増加している。110番で駆けつけていただいて、必ずお子さんがいるかどうかという確認と安全確認をしっかりと行っていただいている。その場での指導と児童相談所へのつなぎを行っていただいているので、その後児童相談所としては介入しやすい状況である。繰り返す家庭は繰り返すので、見守りと支援をどうしていったらいいのか、次の課題として対応ということが浮かび上がってるかなと思っている。

○委員

見つかるときは小さい頃や小学校の時が多いという報告だが、その後数年経ち随分傷ついでから児童養護施設に来る。そこからの回復はとにかくとても難しい。

かなり傷ついたところから大人不信になって、行くところがなく施設に入り、その後施設は18歳となって社会に出ていくようにと言われる。

せっかく連携して早い段階で見つかるようになってきたので早く施設につなげないか。子育てで苦しんでいる状況、虐待・DVになっている関係性は、結構いろいろなことが重なっていて親だけの問題ではないと思う。

子どもを親から奪うわけではないから、早いところ無理をせずお互い一回離れる。ちゃんと子どもと会えますよ、子育てを一緒にしましょう、というところもできるのかなと思っている。どうしても家庭で何とかさせていかななくてはならない、支援をつけないといけない、と限界を感じているケースがいくつかあると思う。

○委員

アドボカシー、アドボケイトとこのごろ国でも言われているが、子どもには子どもの権利を伝えて、子どもは自分で意見を言えるようになってほしい。子どもが家に帰ると言ったら帰さざるを得ない。

○委員

身体的虐待で目に見えるような虐待は最近ない。心理的なものは、言葉では結構あると思うが、目に見えない形なので表面には出ていない部分がたくさんあるのではないかなと思う。

○委員

自分から「助けて」と言える人はいいいのだが、助けてほしいけれど黙ってひどくなる例もある。今はおせっかいな人がいないので、おせっかいなぐらいがよろしいのではないかなと思う。地域みんなで今日ここで顔合わせしたので、今後連絡取り合う等よろしくお願ひしたい。

### 議案第3号 令和4年度伊勢市子ども家庭支援ネットワーク活動計画（案）

【事務局】議案第2号について報告

【各委員】

○委員

子育て講座があるといいなと思うのだが、今は早く育児休暇が終わり仕事に復帰するお母さんが多い。子育て支援センターに来るお子さんの年齢はどのようなものか。

○委員

最近の子育て支援センター利用者の状況は、保育所の入所が低年齢化してきている現状もあって、お子さんの年齢は0～2歳のお子さんが多く、3～5歳児はほとんどいない。

○委員

産む前から分かっておくという意味で産休に入ったぐらいから受けられる講座があればいいと思う。パパママ教室の受講者同士で仲間ができるといいと思う。

○委員

パパママ教室は、実技的な沐浴・父の育児参加・母の心の話等をしている。ご夫婦で来るご家庭がほとんどで、そのなかで知り合いになる人もいる。

また、ママほっとテラスというのを保健センターの中に設置しているので、妊娠中から自由に来ていただける。おしゃべりタイムを週1回設けているので、そこで友達を作ったりしていただいている。

○委員

力のある保護者は自分で仲間を作れるが、そうでない保護者は主催したところがワークショップするなり積極的に会話ができるようにしないとなかなか友達を作れず、そういう家庭で大体問題が起きる。普段の趣味でつながれるようにしないと、子育てだけではなかなかつながれないのではないかと。仲間がいると強く育てていけると思う。ぼつんとしている人をどうするか。そこが一番の虐待防止につながっていくのではないかと。

○委員

集団に入っていくことは結構勇気がいることなので、力のある人でないと難しい。

母子手帳を出す時からひとりひとりと面談させていただくなかで、4割くらいの人が支援が必要で、専門職が定期的な訪問を行ったり、産後ケアにつなげたりと個別の対応をさせていただいている。

○事務局

保健福祉拠点に入る準備をしているところであり、子どもにまつわる担当とハイリスク担当がハード的に一体化し、ソフトの部分も連携しうまく支援がつながるように努力していきたい。

○委員

保護者同士の仲間が増えて相談しあえる人が増えていくとリスクが高くない。なるべく一人で閉じこもらないようにしないと、閉じこもってしまい後で大変になってから見つかるのでは遅い。

○委員

昨年度のアンケート調査の項目のなかのひとつに「ヤングケアラーの方はいますか」という設問を入れさせていただいた。地域の中でそういうご家庭をどこまで把握されているかというのも含めて調査させていただいたが、思いのほか件数が上がってこず、本当ならSOSを発してほしいような人がどこにいるのか分からない状況がある。SOSを発してほしいような人を見つける方法というのが難しくなっている。何かのきっかけで関わられたご家庭については、いろいろな支援機関が協力できるが、その一歩目が難しいという現状である。

○委員

虐待を受けていた子どもが学校に行ったとき、当たり前だと思っていたことが、友達に話を聞くと「あれ、うちって違うのかな」と思っても、そのときは「うち違うの」とは言えず、ますます秘密にしていく。赤ちゃんを産んだ時は、外に出ていく時期なので、そのあたりでつながりができていくといい。

○委員

児童福祉法の改正案ひとつが市町村の体制強化だったと思うが、施行に向けて検討される過程や取り組みなどはこのネットワークでも周知していただけるのか。

○事務局

市の方向性が決定したら報告していきたい。

### 3 その他

事務局より「0歳児見守り支援事業」説明、議事録公開の説明等、次回開催予定